

港北の消防

第53号

平成27年10月1日
編集
横浜市港北消防団
(港北消防署内)

安心で安全な町づくり 岸根町内会 会長 浜田 正一



岸根町内会の活動目的は、この自治会、町内会でもそうであるように、「安心で安全な町づくり」を基本としています。

二十年前、平成七年一月に発生した「阪神・淡路大震災」では、地震による建物被害もさることながら、火災による被害の恐ろしさを目の当たりにしました。又、四年前の平成二十三年三月に発生した「東日本大震災」では、津波で海が川のように流れ人命はもとより、全宅を呑み込み破壊する有様に目を覆うばかりでありました。

私たちは、日本列島に住む限りにおいて自然災害と向き合い続けなければなりません。そのために、発生時の被害を最小に食い止めるための「減災・防災」の仕組みを、家庭に町に築く必要があります。これは、一朝一夕で出来るものではありませんが、今でもそうであった様、町内会活動もこれに関わり、岸根町に住み人々が少しでも安心感や安全感が得られるような町づくりをしていきたいと考えています。

こうした活動を支えてくれるのが消防団であります。発生時よりも、「減災・防災」に於ける日常の啓発活動や仕組み作りは日頃培った知識や技能を多に発揮していただくことを期待しております。港北消防団と団員の皆様の発展とご活躍を期待しつつ応援をしております。

小型ポンプ操法で燃えた

第一分団 第四班 喜安 邦仁

四月の班会議で、班長より四年に一度回ってくる小型ポンプ操法の選手をやってくれないかと声をかけられた。私は、四年前にも選手として小型ポンプ操



法に参加している。その当時の練習を思い出すと、熱い炎天下のなか操作練習をした記憶が甦る。今回は断ろうと思ったが、何故か引き受けてしまった。私の担当は三番員、ポンプの取扱いは研修で習った程度。「大丈夫か？」と不安がよぎる。選手の四人は社員で忙しい、私も含め平日の夜は練習時間に帰ってこれない。全員が揃いやすいように、土日の午前中に行う事になった。ゴールデンウィークを楽しんだ後、練習開始。最初は合わなかった動作も段々と合ってくるようになって、嬉しくなってきた。

六月より本格的な練習になり、気温もじりじりと上昇。ポンプ操作も慣れるが、真空引きの加減、水の流れの加減が難しくなかなかなか上手く行かない。七月になると本番もみえてきて、選手たちの気持ちも一つになっていく。でも、うだるような暑さのせいで長くは練習できない。仕事が忙しく全員が集まってくる練習も多くなかった。

本番では良い成績を残せませんでした。皆が持っている力は出せたと思います。三か月間の練習を経て、本番で競技ができたのは、練習をするための準備をして頂いた消防団員の方々、技術指導をして頂いた小机出張所の所長、健康管理してくれた家族、周りの方々の協力があったからできた事です。本当に感謝しています。

今年の夏の猛暑と同じくらい小型ポンプ操法に燃えた夏でした。

連続歩調響く 第二分団夏季訓練会

第二分団 第一班 豊田 有希

梅雨を前にした六月七日、暑い夏の訪れを予感させる照り付ける陽射しの中、菊名池公園プールで行われた第二分団夏季訓練会に今年も団員として参加しました。木造家屋密集地域を多く含む当分団では毎年実践的な装備や訓練が諸々試され、ロープ結索訓練などでも選ばれた団員達が実際の消火活動に照らした動きの中で巧みにロープを操るなど、見ている側にも明解な訓練が行われています。近年ではウォーターカーテンホースや四〇ミリガンタイプの筒先を使用した消防隊との連携放水訓練なども回数を重ね、よりその息が合ってきたように感じられます。

そうした中、今年の訓練会では、訓練礼式に新たに「連続歩調」が加わりました。これは隊列を組み、指揮者と掛け声を掛け合いながら駆け足行進をするといった一見ごく単純な動作ですが、実際に行ってみると想像以上に難しいもので、うまく調子が合えば強豪野球部さながらの壮観ですが、ひとたびスレが生じればぶつつけ本番の二入三脚の如く馬脚が乱れ、経験も体格も異なる様々な団員が、煩惱を振り払って一体的に歩調を響かせるまでは、それなりの日数を要しました。消防団員は事に当たっては一体となって動かねばならないことを考えれば、こうした訓練は単純なようでなかなか奥が深いものです。

ご協力いただいた関係各所の皆さまに心より感謝し、来たるべき次の機会に向けても歩調を整えて取り組んでいきたいと思っております。また毎年地域住民の方々ともに行われる防災訓練も印象深い行事の一つです。放水訓練、簡易テント設置、炊き出し等、地域住民の皆様も積極的に参加頂き、災害時の対策について考えることが出来ました。もしもの災害は起こらないにこしたことはないですが、普段から私たち消防団と地域の方々がお互いに交流を図ることが出来れば、もしものときにも最大限の力を発揮できると信じています。



港北消防団員として活動して

第三分団 第三班 西脇 寛



私は三年前に子どもの頃から憧れていた港北消防団に入団させて頂きました。

この三年間で、消防団の活動が地域の方々の生活に密着したものであること、また地域の皆様の温かいご支援のおかげで成り立っているものであることを実感しております。入団してはじめて参加させて頂いた、港北消防団夏季訓練会では先輩方の日々の鍛錬に圧倒されたのを覚えています。

そして今年、港北消防団夏季訓練会の小型ポンプ操法に選手として出場させて頂きました。大会に向けての訓練では基本動作もままならず、失敗することも多々ありましたが、署員の方や団の先輩方の熱心な指導のおかげで、ひとつひとつ着実に習得していくことが出来ました。

夏季訓練会当日は、チーム一丸となり、日頃の訓練の成果以上のものを出そうと思ってきました。残念ながら入賞はできませんでしたが、訓練を通じて消防技術の向上だけでなく、第三分団第三班の団員同士の深い絆も育むことができたと考えています。

また毎年地域住民の方々ともに行われる防災訓練も印象深い行事の一つです。放水訓練、簡易テント設置、炊き出し等、地域住民の皆様も積極的に参加頂き、災害時の対策について考えることが出来ました。もしもの災害は起こらないにこしたことはないですが、普段から私たち消防団と地域の方々がお互いに交流を図ることが出来れば、もしものときにも最大限の力を発揮できると信じています。

最後になりますが、消防団に入団し、先輩団員の方々の背中を追って訓練に励んでまいりました。

まだまだ未熟なところが多く、先輩方のようにはいかならないことも多いですが、地域の皆様の笑顔と安全を守るためにこれからも日々精進してまいります。

誠に微力ではありますが、消防団員として地域のために貢献し、自分自身も成長していきたく考えています。引き続き、ご指導いただきます様、お願い申し上げます。

夏季訓練会

小型ポンプ操法に参加して
第四分団 第二班 大久保 剛



「消防団？ ん？ 操法？」。それは友人の口から出た聞き慣れない言葉でした。活動内容など色々話を聞こううちに興味を持ち、入団させて頂きました。それから一年半後、新入団の教育も兼ねたポンプ操法の競技は規律動作や器具などの取扱いを学ぶ良い機会でもありました。各個訓練での規律の細かさや動作の正確さ。操法訓練では延ばした事の無かったホースや筒先から出る予想以上の水圧、すべてが初体験で最初は学ぶ事の多さに戸惑いを感じました。

五月中旬から始めた訓練でしたが、日が経つにつれ意識せずに身体が覚えはじめ何とか団員の皆さんについていける様になりました。おおよそ二か月の訓練をして八月の本番「ミス無く」と肝に銘じながらも緊張と暑さの中で思うような動作が出来ずあつという間に終わってしまいました。個人的には怪我無く訓練できた事が何よりだと思ひ、この操法訓練をきっかけに普段の生活でも意識して体力づくりに励みたいと思っております。

団員の身体のケアを気遣って下さった出張所長や隊員の皆様をはじめ、ご指導して下さった方々にお礼を申し上げます。この操法訓練をきっかけに普段の生活でも意識して体力づくりに励みたいと思っております。

今後はこの訓練で身につけた技能を忘れず、地元地域に貢献できるよう日々努力して参りたいと思っております。

国連防災世界会議で得たもの

第五分団 第二班 佐藤 翔太

今年三月に仙台で行われた国連防災世界会議に、ユースとして参加した。会議では消防団についての他の参加者に説明した。同時に防災に関する多くのことを学ぶことができ、また各国の防災・減災活動に取り組むユースとの出会いがあった。

まず、災害への知識理解と学問的なアプローチ不足を感じた。例えば、災害という言葉は自然災害に限らず、人工的な災害、つまり紛争や内戦も含まれることを知り、自分の価値観が転換したのを感じた。災害は地域によって多様なので、それによって求められる対応は様々である。私の住む横浜市で災害が発生した際は、一つでも多くの要求に応えられるよう、日々の訓練に努めていきたい。

また、減災・防災に関する様々なフィールドで活躍する方と知り合えた。特に私はトルコの災害派遣チームと仲良くなった。彼らは会議終了後発生したネパールの地震で、ガレキの中から二名を救助した。驚くべきことは、学生や社会人から成るこのチームが、交通費や滞在費、資機材、その他活動に関わるすべての経費を自分たちでまかなっていることだ。同じく有志によるチームの活躍により消防団員としての意識が高まった。

防災会議では貴重な経験ができた。私は東日本大震災発生の前年まで仙台に住んでおり、この四年間は被災地と共に成長してきた期間だったと思う。消防団員として仙台に戻り、少し立派になった姿を見せられとても嬉しかった。地域に資する人材になれるよう、これからも努力し挑戦し続けたい。このような機会を与えてくださった方、そして資料作成や原稿準備を手伝っていただいた、港北消防署庶務課及び日吉消防出張所の職員に大変感謝している。



初期消火器具取扱訓練

高田町連合町内会
親和会会長 相澤 昇

四月十九日(日)午前十時より、高田東一丁目十二番十四号先に設置された「スタンドパイプ式初期消火器具」の取扱訓練を町内会の住民約四十名が参加して実施されました。

港北消防署予防課の方と地元消防団員の御指導を頂き、消火器具を組み立て、消火栓に接続し放水するまでの工程を繰り返し練習しました。そのあと、家庭用の消火器具の使用訓練も行われ、初期に近所の人達が消火器具を持ちより協力して消火に当たれば火災を鎮火させることが出来ると思いました。

訓練冒頭に消防署の方より「地震による火災時には消防車はすぐには来られないので、近隣住民が協力し合って、初期消火に当たって下さい。あなた任せは駄目です」と強く言われ、大規模災害に対応した地域防災力の向上が急務であると感じました。

私たちの地域には、木造住宅密集地もあり大震災等で一件の火災の発生が大きな被害になってしまつて危険性があります。参加者全員が初期消火の重要性を共有し、真剣に取り組み、地域の連携を図れた有意義な訓練となりました。



夏季訓練会に参加して

第七分団 第二班 副班長 加藤 義和

今回の夏季訓練会は、私にとって三回目となりました。前回まで三番員で選手として参加させて頂きましたが、今回は指揮者として一から覚えなくてはならない事になり、仕事も日曜日は休みではなく、休みを取って三か



月前より練習をスタートしました。右も左もわからずとにかく教えて貰い、叱咤激励の中何とか第七分団の夏季訓練会ではなつてきました。

大会三週間前より右膝が痛みだし、膝が地面につけられない状態になってしまいました。こんな大事な時に持病が出てしまい、アイシングをして騙し騙し練習に参加しました。自分の中でこのまま当日大会に参加出来るのか？心配で一時期は交代も考えましたが、同じ選手が頑張っている姿に、負けられないという気持ちが強くなり、膝の水を抜きサポーターを着けて、痛み止めの薬を飲み当日の夏季訓練会に参加しました。頭張ってくれて、私もやりきる事ができました。結果は一位。

第八分団夏季訓練会

第八分団 第二班 中坪 清子

八月二十三日(日)大綱小学校体育館において、多数の来賓の方々、昨年に続き鶴見消防団、新たに神奈川消防団の視察を頂き、第八分団夏季訓練会を開催致しました。

今回は訓練式、ロープ結案訓練を全員で行い、負傷者への三角巾による応急手当、傷



長島副団長を偲んで

本部部长 小林 満江

一年間の闘病もむなしく、五月二十三日彼岸へ旅立たれました。

平成二十三年十月に開催された、第十九回全国女性消防操法大会に神奈川県代表「横浜港北女性消防隊」隊長として出場、二年年間にわたる訓練をささげ全国四十四隊中十九位の成績をあげました。

また副団長として「新人教育をきちんとしなければ」との思いを残して...無念です。

合掌

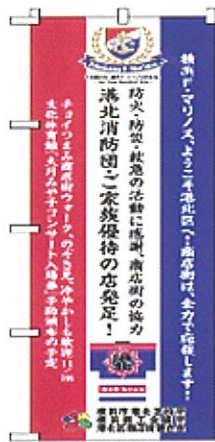
「消防団員協力の店」がキックオフ!!

平成二十七年九月十六日(水)、港北区樽町一丁目「レストラン オークラ」において「港北消防団員協力の店」表示証授与式が港北区商店街連合会、横浜市港北消防団、港北消防署の3団体により執り行われました。当日は多くの報道関係者も来場し、盛大な幕開けとなりました。

式典の中で伊藤港北消防団長は、「本事業は消防団員の満足度の向上や新たな消防団員の確保を目的とし、地域の店舗の方々の協力を得てさらに一体となることを望んでいる」と話した上で、「港北区商店街連合会の協力のもと同意して頂いた133店舗(平成二十七年九月十六日現在)の皆様にお礼の言葉を申し上げるとともに今後も港北消防団の応援を宜しくお願いします」という言葉で挨拶を致しました。

各商店街には順次のほり旗が掲げられ、これからの港北消防団と港北区商店街の活性化が期待されています。

各商店街には順次のほり旗が掲げられ、これからの港北消防団と港北区商店街の活性化が期待されています。



消防団 横浜市港北消防署



本事業に御尽力頂いた、吉原港北区商店街連合会会長



「表示証」を授与する (右)伊藤港北消防団長と(左)木村社長

三団三署合同研修

平成二十七年九月十七日(木)、港北区新横浜国際ホテルにて港北、鶴見、神奈川の女性消防団員向けに「災害・防災と男女共同参画」をテーマに男女共同参画センター横浜南館長・常光様を講師にお招きし女性目線での防災を中心とした研修を行いました。

初の三団三署での合同研修は、普段ほとんどお会いすることがない隣区の女性消防団員との意見交換の場でもあり不安と緊張もありましたが、グループディスカッションをしていくにつれて緊張もほぐれ、同じ消防団員としての意見が活発に飛び交う貴重な時間となりました。

話し合うテーマは主に女性目線での防災から災害時の行動、注意点などが中心でした。グループごとに情報を共有していく中で、日常から災害等を意識しておくかないと、いざという時に行動できないということに、気付かされた研修でもありました。

話し合うテーマは主に女性目線での防災から災害時の行動、注意点などが中心でした。グループごとに情報を共有していく中で、日常から災害等を意識しておくかないと、いざという時に行動できないということに、気付かされた研修でもありました。



責任職員紹介

今年度より港北消防署で新補職となった責任職員を写真にてご紹介致します。



増山警防担当課長 柳瀬警防第二課長 戸嶋査察担当課長

伊藤庶務課長 味上副署長

早坂出張所長(小机) 伊藤出張所長(篠原) 青木出張所長(新羽)

金子救急専任職(警防第一課)

新体制で早くも半年が経ちましたが、「119(い)区」にしよう、チーム港北をスローガンに掲げ、これからも一歩一歩前進してまいりますので、よろしくお願ひ致します。

港北区内の火災情報 平成27年9月30日現在

火災発生状況	平成27年			平成26年			増△減
	年別	件数	死傷者	年別	件数	死傷者	
建物	41	58	2	33	53	2	△17
建林	23	33	0	0	0	0	△10
車	0	0	0	0	0	0	0
船舶	1	4	0	4	3	0	△3
航空	0	0	0	0	0	0	0
雑草	4	4	0	4	0	0	0
その他	13	17	0	17	4	0	△4
焼損床面積	1,395	671	2	724	2	0	724
死者	2	0	2	0	2	0	2
焼死	2	0	2	0	2	0	2
放火自殺	0	0	0	0	0	0	0
負傷者	7	10	0	10	3	0	△3

主な出火原因	平成27年			平成26年			増△減
	年別	件数	死傷者	年別	件数	死傷者	
1 放火(疑いを含む)	9	21	0	5	0	0	△12
2 たばこ	5	5	0	5	0	0	0
3 たこぼし	4	4	0	4	0	0	0
4 食用油加熱	4	2	2	2	2	0	2
5 ストープ	1	3	0	3	0	0	△2

編集後記

各行事や訓練にご参加下さった自治会の代表者の方々の投稿に、消防団活動に対する期待感、信頼感が随所に盛り込まれております。

そのお言葉に甘んじることなく、「地域を守る消防団」としての役割をしっかりと果たしたいと思っております。この「港北の消防」が消防署・消防団、そして地域の皆様の意思疎通の懸け橋となるよう編集委員一同、充実した紙面の作成に心がけてまいります。

第十八期編集委員

本	本	部	部	部	部	部	部
飯田 孝彦	加藤 義和	岩田 文夫	砂田 俊彦	齋藤 信之	小嶋 清之	森下 茂	川省 政
米山 恵子	草山 政	米山 恵子	草山 政	米山 恵子	草山 政	米山 恵子	草山 政